

肥満でなくても腹囲が大きいと糖尿病リスク上昇

体重、腹囲、肥満およびこれらの測定比と 2 型糖尿病リスクとの関連を明らかにするため、システマティックレビューと用量反応性メタ分析を行った。

一般成人の肥満や体脂肪含有量と 2 型糖尿病リスクについて検討したコホート試験について PubMed、Scopus、Web of Science を検索した。その結果、216 件のコホート研究（被験者総数 2,600 万人）に含まれる 2 型糖尿病患者 230 万人が対象となった。解析の結果、BMI（肥満度を示す体格指数）の 5 単位増加による 2 型糖尿病発症の相対リスクは 1.72 であった。腹囲 10cm 増加による同リスクは 1.61、腹囲/臀囲比 0.1 単位増加による同リスクは 1.63、腹囲/身長比 0.1 単位増加による同リスクは 1.73 であった。また、体脂肪率 10%増加では同リスクは 2.05、臀囲 10m 増加による同リスクは 1.11 であった。さらに、BMI と 2 型糖尿病リスクには、強い正の線形の相関がみられた。

今回の結果から、BMI の値が高いほど 2 型糖尿病を発症するリスクが高く、肥満かどうかにかかわらず腹囲の大きさと 2 型糖尿病リスクに強い線形の相関がみられることが示された。

出典：British Medical Journal. 2022 Jan 18; 376: e067516.